

■会員新作情報

■五十嵐隆幸会員



著書名：大陸反攻と台湾—中華民国による統一の構想と挫折
著者：五十嵐隆幸（防衛大学校）

発行年月：2021年9月

出版社名：名古屋大学出版会

本書は、米中両大国のはざまで見落とされてきた台湾の「大陸反攻」を考察する。大陸奪還と中国統一を目標に展開された軍事・外交政策の実像とその変容を、「蔣経国日記」など最新の資料から浮き彫りにするとともに、今日の東アジア国際政治の最大の焦点となっている台湾海峡危機の全体像を歴史的視野で描き出す。

■中兼 和津次会員



著書名：毛沢東論—真理は天から降ってくる

著者：中兼 和津次（東京大学名誉教授）

発行年月：2021年4月

出版社名：名古屋大学出版会

毛沢東の思想・哲学、政策、行動を追求・分析することを通じて、彼が現代中国に残した遺産を探る。毛沢東の階級論や知識人觀、反右派闘争から大躍進政策への展開、その後に起きた大飢饉・飢餓の実態とメカニズム、文化大革命への道、周恩來との関係、さらには彼を取り巻く江青ら女性たちとの関係、といった多面的視野から、毛沢東の思想と行動の特徴を大胆に評価する。

■江口 伸吾会員



著書名：現代中国の社会ガバナンス—政治統合の社会的基盤をめぐって
著者：江口 伸吾(南山大学)

発行年月：2021年3月

出版社名：国際書院

本書は、2013年の党第18期三中全会で注目された「社会ガバナンス」に焦点をあて、社会主義市場経済体制への移行に起因する国内社会のグローバル化により流動化、多元化する現代中国社会の政治統合の過程を考察する。とくに、所有権改革、都市の社区建設や農村の村民自治、公民社会、協商民主、大衆路線などの政治社会の変化をとりあげ、党・国家主導による中国型の国民国家建設、それと表裏一体をなす権威主義体制の行方を検討する。

■段 瑞聰会員



著書名：蒋介石の戦時外交と戦後構想——1941-1971年
著者：段 瑞聰（慶應義塾大学）
発行年月：2021年3月
出版社名：慶應義塾大学出版会

1941年から1971年にかけての蒋介石の戦時外交戦略、戦後構想および戦後対日、対米、対中共政策を中心に検討する。20世紀中国史において蒋介石をどのように位置づけすればよいか。蒋介石にとって、日中戦争とは何であったか。蒋介石は戦後日中関係、とりわけ対日戦後処理をどのように考えていたか。1949年以降、蒋介石は政権の正統性を確立するためにどのような政策を打ち出したか。これらの問題を検討することは、日中戦争と太平洋戦争に対する理解を深めることができるものばかりでなく、今日の日中関係と両岸関係を理解するためにも有益であると思われる。

■小西 鉄会員



著書名：新興国のビジネスと政治—インドネシア バクリ・ファミリーの経済権力
著者：小西 鉄（福岡女子大学）
発行年月：2021年3月
出版社名：京都大学学術出版会

インドネシアの多くの大企業は、その創業者ファミリーが形成したビジネス・グループに属し、政治権力との彼らの個人的なつながりによって大きな利益を確保し、同国経済をけん引してきた。しかし、98年のアジア経済危機、その後の民主化や改革、さらには2008年の世界金融危機により、こうしたファミリー・ビジネスは解体のリスクにさらされるようになる。果たして、ビジネス・ファミリーはどのように生き残りを図り、その「経済権力」を維持してきたのか。新興国インドネシアのビジネスと政治のあいだにあるダイナミクスの論理を探る。

■荒 哲会員



日本占領下のレイテ島
The Japanese Occupation of Leyte Island, Philippines
Resistance and Resistance in the Context of War in the Philippines

著書名：日本占領下のレイテ島—抵抗と協力をめぐる戦時下フィリピン周縁社会
著者：荒 哲
発行年月：2021年2月
出版社名：東京大学出版会

戦後日本の戦記文学の代表作である大岡昇平が著した『レイテ戦記』で有名なアジア・太平洋戦争の激戦地の一つフィリピン・レイテ島。本書は、民衆が主体の対日協力問題に焦点を当て、エリートの対日協力と比較しながら、それら民衆の役割がフィリピン史の中でどのように位置づけられてきたかを明らかにする。そして、フィリピンの地方史を民衆史の視点から投射し、戦後のフィリピン史学におけるアメリカ中心史観を批判する。エリートによって分断された戦後のフィリピン社会が、エリートの民衆に対する「山賊」排除の歴史によって形成されてきたとする新たな視座を提示する。

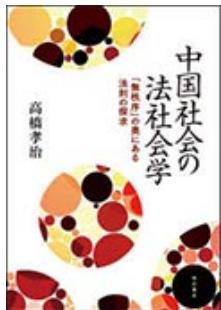
■谷口美代子会員



著書名：平和構築を支援する—ミンダナオ紛争と和平への道—
著者・編者：谷口美代子
発行年月：2020年3月
出版社名：名古屋大学出版会

リベラル平和構築論を超えて ——。15万人に及ぶ犠牲者を出し、日本も関わるアジアの代表的地域紛争の和平をいかに実現すべきか。徹底した現地調査により、分離独立紛争とその影に隠れた実態を解明、外部主導型のリベラル平和構築論の支援の限界を示して、現地社会の視点をふまえた平和構築のあり方を考える。

■高橋孝治会員



著書名：中国社会の法社会学

著者・編者：高橋孝治

発行年月：2019年12月

出版社名：明石書店

郵便事故や信号無視といった身近な問題やルポルタージュなども素材として、中国社会を法社会学的に考察。一見すると「法が守られていないように見える」中国で生じているさまざまな現象の法的根拠を探り、日本において広まっている俗説や誤解を打ち破る。

■阿古智子会員、石塚迅会員、山崎直也会員



著書名：東アジアの刑事司法、法教育、法意識：映画『それでもボクはやってない』海を渡る

著者・編者：阿古智子（東京大学・石塚迅（山梨大学）・山崎直也（帝京大学）編

発行年月：2019年11月

出版社名：現代人文社

「人権」や「法」といった、市民社会を支える事柄について、東アジアの若者はどのように考えるのか。日本の刑事裁判の抱える問題をあぶりだした映画『それでもボクはやってない』を、日本、中国、台湾、香港の学生に見てもらい、ディスカッションをするワークショップを、各国で実施。その成果を検証するシンポジウムを書籍化。各地で共通する感想もあれば、異なる感想もある中で、日本の刑事司法の課題が浮き彫りになる。

■石塚 迅会員



著書名：現代中国と立憲主義

著者・編者：石塚 迅（山梨大学）

発行年月：2019年10月

出版社名：東方書店

「天安門事件」で中国はあらためて近代西欧立憲主義と出会い、そして、それと正面から向きあわざるをえなくなった。「天安門事件」から今日に至るまでの三十年、中国は近代西欧立憲主義とどのように向きあってきたのか。中国と近代西欧立憲主義との間の距離は縮まったのか、それとも拡がったのか。両者の間にあるのは距離だけなのか、溝があるとすれば、それは埋められるものなのか。以上のような問いに、人権、言論の自由、人民代表大会と人民法院との関係、情報公開、陳情等の具体的論点の検討を通して接近し、私なりの解答を与えようとするのが本書の大きな目的である。

■岡田 実会員



著書名：日中未来遺産—中国「改革開放」の中の“草の根”日中開発協力の「記憶」

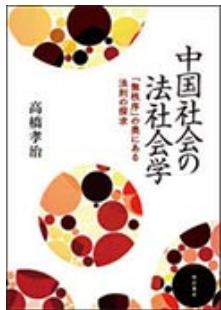
著者・編者：岡田 実（拓殖大学国際学部）

発行年月：2019年7月6日

出版社名：日本橋報社

「改革開放」初期、“草の根”で黙々と汗を流し、農村の発展を支えた日本人たちがいた。中国唯一の「日本人公墓」がある黒龍江省方正県で寒冷地稲作技術を伝えた藤原長作、中国全土でコメの増産に貢献した原正市、スイカの品種改良に心血を注ぎ、北京の人気銘柄に名前の一文字が採用された森田欣一、“一村一品”運動が中国でも広く受容された平松守彦……。「戦争の記憶」が色濃く残る中国で顕著な成果を挙げた日本人4人の「開発協力の記憶」をひもとき、日中の未来を考える。

■高橋孝治会員



著書名：中国社会の法社会学
著者・編者：高橋孝治
発行年月：2019年12月
出版社名：明石書店

郵便事故や信号無視といった身近な問題やルポルタージュなども素材として、中国社会を法社会学的に考察。一見すると「法が守られていないように見える」中国で生じているさまざまな現象の法的根拠を探り、日本において広まっている俗説や誤解を打ち破る。

■牛山隆一会員



著書名：ASEANの多国籍企業——増大する国際プレゼンス
著者：牛山隆一（公益社団法人日本経済研究センター）
発行年月：2018年11月
出版社名：文眞堂

ASEAN経済の発展を背景に実力を高めているASEAN企業が海外事業展開を加速し、国際プレゼンスを増している。こうした企業の中には当該業界で世界ないしはアジア有数の規模を誇るところもある。本書は、ASEAN経済の新たな見所といえる「ASEAN多国籍企業」の実態に統計・事例の双方から迫った。登場するASEAN企業は90社超。日本企業とASEAN企業の新たな協業の在り方などについても考察した。

■徐涛会員



著書名：台頭する中国における東アジア共同体論の展開—戦略・理論・思想
著者：徐 涛（愛知大学国際中国学研究センター）
発行年月：2018年03月
出版社名：花書院

大国化する中国はいかなる地域戦略を講じ、どのような地域主義像を持ち、いかなる価値や規範を構築しようとしているのだろうか。中国政府およびそのシンクタンク、ブレーンから、哲学者や思想史研究者まで、中国の東アジア共同体論を複合的アプローチから分析。第六回「岡倉天心記念研究奨励賞」を受賞。

■王冰会員



著書名：中国共産党とメディアの権力関係
著者：王 冰（中山大学コミュニケーションと設計学院 講師）
発行年月：2018年01月
出版社名：明石書店

中国の批判報道をめぐりメディア側の独自の展開と共産党の認識の間に権力関係のようなものが存在するかどうか。もし存在するならば、中国共産党とメディアの間には、批判報道をめぐる権力関係及び権力メカニズムはどのようなもののか。

■遠藤正敬会員



著書名：戸籍と無戸籍 – 「日本人」の輪郭
著者：遠藤正敬（早稲田大学台湾研究所）
発行年月：2017年05月
出版社名：人文書院

近代日本において無戸籍者の存在は、家制度をはじめ徴兵、治安、福祉などに関わる政治・社会問題であると同時に、戦争、移民、引揚げに関わる国際問題であった。そして現代では家族生活の多様化、海外定住者の増加に伴い、戸籍の必要性そのものが問われている。無戸籍者の歴史的変遷を辿ることで「日本人」の輪郭を改めて捉え返す。

■森一道会員



著書名：台頭する「ポスト華南経済圏」～“脱・経済”を目指す中国改革開放の新たな地平
著者：森一道（New Asian Invesco [Hong Kong] Ltd.）
発行年月：2017年04月
出版社名：芙蓉書房出版

1980年代後半から約10年間、主に中国広東省と香港が構成する「華南経済圏」が注目された。しかし2007年から当時の汪洋広東省党委書記（現副首相）の下で経済成長至上主義を退けつつ人間個々の幸福の実現を施政目標とする「華南政策」が、すぐれたサービス業の発展条件を持つ香港の関与を手段として試行されている。同政策は習近平体制の下でも新型城鎮化政策として全国レベルでも展開されているとの考え方から、同政策の形成、進捗状況などを香港の政治状況との関連から論述。

■鈴木隆会員、西野真由会員、大島一二会員、諏訪一幸会員、福田保会員、田中周会員



著書名：現代アジア学入門：多様性と共生のアジア理解に向けて
著者：鈴木隆（愛知県立大学），西野真由（愛知県立大学）
発行年月：2017年04月
出版社名：芦書房

国際社会でアジアの存在感は日々増しているが、歴史や領土をめぐる軋轢により、アジア諸国とわが国との協力発展は、なお多くの課題を抱えている。だが日本の将来は、アジアのなかの日本として、アジア太平洋の発展をめざす道にこそある。本書は文学、歴史学、法学、国際関係論、経済学、経営学などの視点から、中国、台湾、東南アジア、中央アジア、その他新興国の歴史と現状をとりあげ、現代アジア研究の概説書として未来を展望する。

■阿古智子会員、大澤肇会員、王雪萍会員



著書名：変容する中華世界の教育とアイデンティティ
著者：阿古智子（東京大学），大澤肇（中部大学），王雪萍（東洋大学）
発行年月：2017年03月
出版社名：国際書院

激しく変動する中華世界（中国、台湾、香港）において、人々はアイデンティティをどのように形成しているのだろうか。学校、家庭、コミュニティ、サイバースペースにおける教育の理念と実践を、歴史と現在を見据えて分析する。

■川島哲会員



著書名：経済統合と通商秩序の構築

著者：川島哲（金沢星稜大学）

発行年月：2017年03月

出版社名：晃洋書房

メコン川流域地域へ日本企業が21世紀以降進出を始め、ミャンマーについては2011年民政後に新たな国づくりが行われ間もない。このような中日本企業がまた北陸企業が今後いかに関わっていくのかについて解説。

■遠藤正敬会員



著書名：戸籍と無戸籍 - 「日本人」の輪郭

著者：遠藤正敬（早稲田大学台湾研究所）

発行年月：2017年05月

出版社名：人文書院

近代日本において無戸籍者の存在は、家制度をはじめ徴兵、治安、福祉などに関わる政治・社会問題であると同時に、戦争、移民、引揚げに関わる国際問題であった。そして現代では家族生活の多様化、海外定住者の増加に伴い、戸籍の必要性そのものが問われている。無戸籍者の歴史的変遷を辿ることで「日本人」の輪郭を改めて捉え返す。

■森一道会員



著書名：台頭する「ポスト華南経済圏」～“脱・経済”を目指す中国改革開放の新たな地平

著者：森一道（New Asian Invesco [Hong Kong] Ltd.）

発行年月：2017年04月

出版社名：芙蓉書房出版

1980年代後半から約10年間、主に中国広東省と香港が構成する「華南経済圏」が注目された。しかし2007年から当時の汪洋広東省党委書記（現副首相）の下で経済成長至上主義を退けつつ人間個々の幸福の実現を施政目標とする「華南政策」が、すぐれたサービス業の発展条件を持つ香港の関与を手段として試行されている。同政策は習近平体制の下でも新型城鎮化政策として全国レベルでも展開されているとの考え方から、同政策の形成、進捗状況などを香港の政治状況との関連から論述。

■鈴木隆会員、西野真由会員、大島一二会員、諏訪一幸会員、福田保会員、田中周会員



著書名：現代アジア学入門：多様性と共生のアジア理解に向けて

著者：鈴木隆（愛知県立大学），西野真由（愛知県立大学）

発行年月：2017年04月

出版社名：芦書房

国際社会でアジアの存在感は日々増しているが、歴史や領土をめぐる軋轢により、アジア諸国とわが国との協力発展は、なお多くの課題を抱えている。だが日本の将来は、アジアのなかの日本として、アジア太平洋の発展をめざす道にこそある。本書は文学、歴史学、法学、国際関係論、経済学、経営学などの視点から、中国、台湾、東南アジア、中央アジア、その他新興国の歴史と現状をとりあげ、現代アジア研究の概説書として未来を展望する。

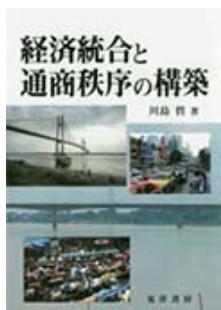
■阿古智子会員、大澤肇会員、王雪萍会員



著書名：変容する中華世界の教育とアイデンティティ
著者：阿古智子（東京大学），大澤肇（中部大学），王雪萍（東洋大学）
発行年月：2017年03月
出版社名：国際書院

激しく変動する中華世界（中国、台湾、香港）において、人々はアイデンティティをどのように形成しているのだろうか。学校、家庭、コミュニティ、サイバー空間における教育の理念と実践を、歴史と現在を見据えて分析する。

■川島哲会員



著書名：経済統合と通商秩序の構築
著者：川島哲（金沢星稜大学）
発行年月：2017年03月
出版社名：晃洋書房

メコン川流域地域へ日本企業が21世紀以降進出を始め、ミャンマーについては2011年民政後に新たな国づくりが行われ間もない。このような中日本企業がまた北陸企業が今後いかに関わっていくのかについて解説。

■中村元哉会員、大澤肇会員、久保亨会員、田中仁会員、杜崎群傑会員、吉見崇会員、山口信治会員、王雪萍会員、河野正会員



著書名：現代中国の起源を探る—史料ハンドブック
著者：中村元哉（津田塾大学），大澤肇（中部大学），久保亨（信州大学）
発行年月：2016年10月
出版社名：東方書店

本書は、政治・思想史や経済史、教育史、軍事史、民族政策史など12の章にジャンル分けをし、各ジャンルの専門家による「研究状況」と「史料紹介」が記述され、必要に応じて詳しい「史料解題」が付される。「補論」として、関係するデータベースの利用状況などを全面的に紹介している。巻末には、約50頁にわたる「研究文献・史料一覧」を附す。中国を詳しく知りたい人には、ぜひお勧めしたい1冊である。

■張兵会員



著書名：訪日中国人から見た中国と日本—インバウンドのあり方—
著者：張兵（山梨県立大学）
発行年月：2016年09月
出版社名：日本僑報社

訪日中国人に関する文献が増えつつあるが、その多くは、「爆買い」や情報の発信など特定の項目に焦点を当てた報道または市場攻略ガイドであり、マクロ視点の本格的な研究はまだ少ない。本書は公表されている各種のデータに基づき、中国人訪日旅行の現状と未来、またその背景となる中国の諸事情について概観し、あわせて訪日中国人から見た日本及び日本におけるインバウンドのあり方について解説、議論を行うものである。

■貞好康志会員



著書名：華人のインドネシア現代史—はるかな国民統合への道
著者：貞好康志（神戸大学）
発行年月：2016年07月
出版社名：木犀社

インドネシアへの中国移民と子孫=「華人」を焦点にすえた同国近現代史。オランダ植民地期に華人の一部に芽生えた「インドネシア志向」のナショナル・アイデンティティが、独立後、激動する政治社会環境との応酬のなかで、反華人暴動などの試練を乗り越え成長する過程を辿る。同時に、華人問題への取り組みを契機に、インドネシア・ナショナリズム自体の成員決定原理が「血統主義」から「属地主義」に移行したことを論証する。

■阿古智子会員



著書名：超大国・中国のゆくえ
著者：新保敦子（早稲田大学），阿古智子（東京大学）
発行年月：2016年07月
出版社名：東京大学出版会

急速な経済成長の陰でさまざまな矛盾を抱え、引き裂かれる中国社会において、社会の断裂はどのように乗り越えられるのか。本書では格差の構造や揺れ動く言論空間において苦闘する人々の姿に迫り、社会変革を阻む要因を抉り出し、中国社会のゆくえを考察する。

■青山瑠妙会員、巖善平会員、朱建栄会員、田中修会員



著書名：2020年に挑む中国：超大国のゆくえ
著者・編者：巖善平・湯浅健司・日本経済研究センター 編(同志社大学・日本経済研究センター)
発行年月：2016年07月
出版社名：文眞堂

短期的な経済の動向だけでは中国の実力は判断できず、中国指導部が目指す方向を見誤ると、将来は予想できない。本書は日中の第一線の研究者がテーマ別に分析、2020年の「100年目標」達成に向けて現在、中国の指導部が何を考え、どのような方向に導こうとしているのかを明らかにする。

■田村慶子会員



著書名：シンガポールの基礎知識 (アジアの基礎知識)
著者：田村慶子（北九州市立大学）
発行年月：2016年04月
出版社名：めこん

本書は1人で書いたシンガポールの歴史、政治、経済、社会についての概説書である。本書全体は9章とコラム「シンガポールの10人」からなる。まず最初の「1シンガポールはどんな国か」でイメージをつかむことができ、さらに歴史、政治や経済、社会についての章が続き、丁寧な概説と分析が記述されている。著者が撮った写真もたくさん掲載されているので、写真だけを見ても楽しいだろう。

■菱田雅晴会員、鈴木隆会員



著書名：超大国・中国のゆくえ3 共産党とガバナンス
著者・編者：菱田雅晴（法政大学）、鈴木隆（愛知県立大学）
発行年月：2016年04月
出版社名：東京大学出版会

経済が失速してもなお、中国共産党の支配は持続可能なのか。少子高齢化、都市化、情報化、権利意識の高まりといった新たな状況に対し、習近平政権の改革は功を奏するのか。ガバナンスをキーワードに、アクターと制度・政策の連関のなかで中国政治を読み解く。

第2巻・外交（天児慧、青山瑠妙）、第4巻・経済（丸川知雄、梶谷懐）に続くシリーズ第3巻【シリーズ全5巻／第3回配本】

■永井史男会員



著書名：地方からの国づくり—自治体間協力にかけた日本とタイの15年間の挑戦
著者：平山修一（株式会社シーエスジェイ）・永井史男（大阪市立大学）・木全洋一郎（JICA）
発行年月：2016年03月
出版社名：佐伯印刷

本書は、JICAが1999年～2013年まで実施した「タイ地方行政能力向上プロジェクト」の約15年にわたる取り組みの軌跡を、プロジェクト実施に関わった3名の著書がまとめたものです。このプロジェクトでは両国の学識者による共同研究として協力が始まり、相互に意見交換を重ねて「自治体間協力」を柱とした協力に発展し、同国における自治体間協力のモデルと制度づくりが行われました。本書は、タイ地方自治の改善に取り組んだ軌跡を詳細に描いています。

■古田元夫会員、倉沢愛子会員、若林正丈会員、西芳実会員、石井弓会員



著書名：歴史としてのレジリエンス—戦争・独立・災害
編者：川喜田敦子（中央大学）／西芳実（京都大学）
著者：古田元夫（東京大学・名誉教授）／倉沢愛子（慶應義塾大学・名誉教授）／石井弓（日本学術振興会特別研究員）／若林正丈（早稲田大学）／長沢栄治（東京大学）／日下部尚徳（東京外国语大学）／川口悠子（法政大学）／越野剛（北海道大学）／家田修（北海道大学）
発行年月：2016年03月
出版社名：京都大学学術出版会

災いは社会の亀裂をもたらし、その修復は何世代もの歴史のなかで行われる。戦争、革命・政変、冷戦、難民問題、原発事故…。危機への対応が新たな歪みや亀裂を生み出す状況下で、人々は何をもって誰にとっての復興に取り組んできたか。復興の捉え方の歴史的変遷や地域的相違に注目しながら、今、私たちがめざすべき社会像の手掛かりを探る。2014年から刊行が開始された「災害対応の地域研究」シリーズの第4巻。

■加藤弘之会員、梶谷懐会員



著書名：二重の罠を超えて進む中国型資本主義—「曖昧な制度」の実証分析

著者・編者：加藤弘之（神戸大学）、梶谷懐（神戸大学）

発行年月：2016年03月

出版社名：ミネルヴァ書房

改革開放以来、高度成長を続けてきた中国は、「中所得国の罠」と「体制移行の罠」に直面しているとされ、その持続可能性に関心が集まっている。

本書では、現代中国が抱える様々な問題群を、「制度」をキーワードとした長期的なパースペクティブから考察し、また習近平政権下において「二重の罠」に陥っているか否か、そしてそこからの脱出方法があるかを、企業のイノベーションおよび格差や腐敗問題という視角から分析する。

執筆会員：厳善平会員、任哲会員、藤井大輔会員、日置史郎会員、伊藤亞聖会員、木村公一朗会員、中兼和津次会員、三竜康平会員、梶谷懐会員、渡邊真理子会員、陳光輝会員、大橋英夫会員、馬欣欣会員、星野真会員、加藤弘之会員